

令和5年度 第2回 清瀬市環境審議会 会議録（要旨）

日程：令和5年10月19日（木）

時間：午後2時から

場所：市役所 2階 市民協働ルーム

出席委員：江口委員、服部委員、黒瀬委員、松本委員、村野委員
宮澤委員、福山委員、大槻委員、小川委員

事務局：高見澤 市民環境部長、綾 環境課長、野中 環境政策係長、山越

NTT データ経営研究所（受託業者）：新出様、河野様

《会議次第》

1 開 会

2 議 題

（1）清瀬市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

（2）その他

《配布資料》

- ・資料 01 清瀬市地球温暖化対策実行計画＜概要版＞
- ・別紙 01 アンケート及びワークショップ実施結果

《議事内容》

1 開会

2 議題

(1) 清瀬市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

資料

清瀬市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）資料

～事務局より清瀬市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について説明～

《以下、意見及び質疑》

【委員】

概要版は非常にわかりやすい。目標を掲載しているが、細かく目標値の設定は行っているか。

【事務局】

可能なものは設定している。

【委員】

CO2の排出量は計算できるものなのか？

【事務局】

東京都では自治調査会という団体で各自治体の排出量の推計を2年遅れで出している。それをベースに推計することを考えている。

【委員】

「2. 温室効果ガス排出量の推計・要因分析」ではコロナという特殊な状況であったと思う。それを最新として出してもよいのか。

【事務局】

特段問題があるとは捉えていない。

【委員】

BAU ケースが2050年までにフラットになっているが、このケースをどのように見積したのか伺いたい。また、人口が増えたらCO2排出量が増える要因になりうると思う。環境課だけでは人口の増減は図れないと思うが、市役所として議論されているのか。

【受託業者】

人口推移に関しては清瀬市でも測定されているというところと、それ以外にも社会保障人口問題研究所というところで、出生率などを踏まえ、人口推計を検証しており、その数値をベースの今回算出している。BAU ケースは各部門に細かく計算を行ったトータルで横ばいになっているということである。

【委員】

どのように排出量の想定をしているのか。

【受託業者】

国のエネルギー消費統計というものがあり、それをもとに清瀬市の割合に応じて按分し清瀬市の排出量想定を出している。

【委員】

電気の使用量からも推計すると言っていたが、発電の方法が変われば、排出量に影響があると思うが、どのように推計されるかが気になる。

【受託業者】

発電の際に CO2 が発生する係数を表す排出係数というものがあり、東京都内の数値を把握しており、それを基に使用量と排出係数を求めている。

【委員】

これがうまくいきそうなのか。それとも変えた方がいいのか。我々が議論するための材料が少ないので、聞いただけで終わってしまうと思う。

【委員】

数値は出るが、大まかな数値になるのではないか。

【委員】

実績が推計と比較し、どれくらいうまくいっているのか、どれくらい計画よりずれているか、それが分かればもっと取組みがうまくいく。

【委員】

PDCA を回すとなると、細かくデータを出してもらわないと、審議が進まない。そのようなデータの出し方をお願いしたい。経過状況を示してもらった方が審議会としてもやりやすい。チェックは1年毎にやらないと、大きなずれが生じた時に大変なずれになってしまう。

【委員】

家庭部門の排出量が一番多いということなので、市民も協力して取り組まないと目標達成は困難だと思う。そのために関心を持ってもらい、現状を理解してほしい。そのためにも、数字を見えるようにしてほしい。また、小中学生は明るい話題が多くあるので、彼らが大人になった時に、自分たちの問題として捉えてくれると良い。

【委員】

せっかく、意識が高い子供たちが多いので、子供たちを巻き込んだ取組みを進めてほしい。それだけ、地球温暖化対策は注目されている。

このアンケートを活かしてほしい。

【委員】

今後、この計画は受託業者とどのように進めていくのか？

【事務局】

自治調査会の出すデータをベースとして、市の取組みを反映できるツールを受託業者と作っているので、そのツールを用いて進捗管理していきたい。

【委員】

そのデータを見て取組みを変えていくのか？

【事務局】

データを含め社会情勢や環境にも応じて変化していくものと考えている。

【委員】

アンケートにはゼロカーボンシティを知らないという意見が多く出ていることに関してどのように考えているか。

【事務局】

啓発が不足していると考えており、基本方針の中で取組みに盛り込んでいる。

【委員】

削減目標の46%はハードルが高いと思う。

【委員】

アンケート見たが市民の関心が薄い。市長が宣言したのだから、市長にももっと頑張ってもらいたい。もっとPRをした方がよい。市民の皆さんに向かって、宣言について、講演会や勉強をした方がいい。

【委員】

PDCAに関してどの程度の頻度で行うことを考えているか。

【事務局】

年に1回の実施と考えている。

【委員】

チェックするようなデータが少ない。相手がどれだけ理解したかを書かないといけない。ある意味、無理やり数値化して評価した方がいい。無理やりにも数値化した資料があれば議論しやすい。

【委員】

パブリックコメントはこの概要版も市民に公開になると思うが、このBUAケースを見ると、補足説明が無いとどの様な前提となっているのか分かりづらいと思う。

【事務局】

公表をする時は誤解が生じないように説明を記載したいと考えている。

【委員】

プラン策定時にチェックができるように作らないといけない。プランの数値化は概要版にはでてこないのか？

【事務局】

本計画の素案にて可能なものは掲載する。

【委員】

市民がどの程度、削減する必要があるかを数値として見えるようにしてもらえるとありがたい。市民に分かるようにしていくことが市民の意欲につながると思う。

【委員】

本計画に関わる他の審議会等の情報も共有してほしい。また、各審議会を横で

繋げてほしい。

【委員】

この会議でも、取組みに対する具体的な内容を示してほしい。学校教育にも取り入れてほしい。

【事務局】

具体的な内容は今後の素案で掲載してお示しする。

【委員】

子どものころから、緑に関心を持ってもらって、大人になっても忘れずにやってほしい。それが環境教育である。

【委員】

買った土地の林の管理活用計画が無い。清瀬市はプランの部分が非常に欠けている。次に何をすることが決まっていない。緑に対する考え方をうまく考えていただけたらと思う。100年後の森を考えた森づくりをしてほしい。

【委員】

今の意見は基本計画の中に入れてほしいと強く思う。
緑化を進めるのに、地域住民へ伝わっていない。また、市民団体の意見が市役所には伝わっているのか、と思う。

【委員】

目標に対して各部署が事業を立てて、進めていくということで良いか。

【事務局】

おっしゃる通りである。担当部署とは相談等連携しながら、施策を策定している。

【委員】

本審議会の意思は環境課だけでとどめず、該当課へも伝えてほしい。削減目標の数値を審議会のメンバーに見せていただきたい。PDCA サイクルのチェックをしっかりと行いたい。

【委員】

プランに対する、チェックの方法を考えてないといけない。チェックができないなら、PDCA とは言えないのではないか。

【委員】

いつ、どの程度やるのか、やったのか等、もっと具体的な結果の内容が分かるようにした方がいい。

【委員】

本計画に限らず、各計画のチェックについて、全ての項目をチェックすると、膨大な時間がかかる。なので、重点的にチェックする項目を絞って取組んでいく必要がある。

そうでないと、チェックが不完全な形で終わってしまう。一度に全ての項目をやる必要はないのではないかと思う。

【委員】

議題設定だけであれば、審議のために集まる必要はなく、メール等でも意見を集約できると思う。

【委員】

来年度から、重点的にどこを進めるか事前に聞いて進めた方が良い。必要に応じて、他部署の職員が出てきてもらうのもいいと思う。

【事務局】

多くの意見をいただいた。検討し計画や今後の審議会の進め方に反映させたいと思う。

(2) その他

～事務局より今後の会議日程等について説明～